

# 易行品

○総説

挙難請易

諸久墮の三難

【易行品第九】

○問ひて曰はく、是の阿惟越致の菩薩の初事は先に説くがごとし。阿惟越致地に至るには、諸の難行を行じ、久しくして乃ち得べし。

或いは声聞・辟支仏地に墮す。若し爾らば是大衰患なり。  
『助道法』の中に説くがごとし。

若し声聞地、及び 是を菩薩の死と名づく。 若し地獄に墮するも、 若し二乗地に墮すれば、 地獄の中に墮するも、 若し二乗地に墮すれば、 仏自ら經の中に於て、 人の寿を貪る者、 菩薩も亦是くのごとし。 辟支仏地に於ては、	辟支仏地に墮するは 則ち一切の利を失す。 是くのごとき畏れを生ぜず。 則ち大怖畏と為す。 畢竟じて仏に至ることを得。 畢竟じて仏道を遮す。 是くのごとき事を解説したまふ。 首を斬らむとすれば則ち大きに畏るるがごとく、 若し声聞地、及び 大怖畏を生ずべしと。
---	---

是の故に、若し諸仏の所説に、易行道にして疾く阿惟越致地に至ることを得る方便有らば、願はくは為に之を説きたまへと。

○答へて曰はく、汝が所説のごときは、是憊弱怯劣にして大心有ること無し。是丈夫志幹の言に非ず。何を以ての故に。若し人願を發して阿耨多羅三藐三菩提を求めむと欲して、未だ阿惟越致を得ずは、其の中間に於て身命を惜しまず、昼夜精進して頭燃を救ふがごとくすべし。

呵問

『助道』の中に説くがごとし。

菩薩未だ阿惟越致地に

常に勤精進して、

重担を荷負するがごとくすべし。

常に勤精進して、

声聞乘・辟支仏乘を

但己が利を成ぜむが為にするも、

何に況や菩薩の

此の二乗の人よりも、

至ることを得ずは、

猶頭燃を救ひ、

菩提を求むる為の故に、

懈怠の心を生ぜざるべし。

求むる者のごときは、

常に勤精進すべし。

自ら度し、亦彼を度せむとするに於てをや。

億倍して精進すべしと。

大乘を行ずる者には、仏是くのごとく説きたまへり。願を發して仏道を求むるは三千大千世界を挙ぐるよりも重しと。汝、「阿惟越致地は是の法甚だ難し。久しくして乃ち得べし。若し易行道にして疾く阿惟越致地に至ることを得る有りや」と言ふは、是乃ち怯弱下劣の言なり。是大人志幹の説に非ず。

許説

難易二道・乗船譬喩

信方便易行

汝若し必ず此の方便を聞かむと欲せば、今当に之を説くべし。  
仏法に無量の門有り。世間の道に難有り易有り。陸道の歩行は則ち苦しく、水道の乗船は則ち楽しきがごとし。菩薩の道も亦是くのごとし。或いは勤行精進のもの有り、或いは信方便易行を以て疾く阿惟越致に至る者有り。

偈に説くがごとし。

○十方十仏章

東方善徳仏、

西無量明仏、

東南無憂徳、

西北華徳仏、

南栴檀徳仏、

北方相徳仏、

西南宝施仏、

東北三行仏、

十仏称名不退

十仏称名成仏

下方明德仏、

上方広衆徳、

是くのごとき諸の世尊、

今現に十方に在す。

若し人疾く

不退転地に至らむと欲せば、

恭敬心を以て、

執持して名号を称すべしと。

若し菩薩此の身に於て阿惟越致地に至ることを得て、阿耨多羅三藐三菩提を成就せむと欲せば、应当に是の十方諸仏を念じ、其の名号を称すべし。

『宝月童子所問経』の阿惟越致品の中に説きたまふがごとし。

仏、宝月に告げたまはく、東方此を去ること無量無辺不可思議

恒河沙等の仏土を過ぎて世界有り。無憂と名づく。其の地平坦にして七宝をもて合成し、紫磨金縷をもて其の界に交絡せり。宝樹羅列して、以て莊嚴と為す。地獄・畜生・餓鬼・阿修羅道及び諸の難処有ること無し。清浄にして穢れ無く、沙磧・瓦石・山陵・堆阜・深坑・幽壑有ること無し。天より常に華を雨らして、以て其の地に布けり。

時に世に仏有す。号して善徳如來・応供・正遍知・明行足・善逝・世間解・無上士・調御丈夫・天人師・仏・世尊と曰ふ。大菩薩衆恭敬し圍繞す。身相の光色大金山を燃やすがごとく、大珍宝聚のごとし。諸の大衆の為に広く正法を説きたまふ。初・中・後善く辞有り義有り。所説雜はらず。具足し、清浄にして、如実にして失せず。何をか失せずと謂ふ。地・水・火・風を失せず、欲界・色界・無色界を失せず、色・受・想・行・識を失せざるなり。

宝月、是の仏成道より已来六十億劫を過ぎたまへり。又其の仏国は昼夜異なること無し。但此の間の閻浮提の日月歳数を以て彼の劫寿を説く。其の仏の光明常に世界を照らし

【行巻】

若し人疾く不退転地に至らんと欲う者は、恭敬心を以て執持して名号を称すべし。

若し菩薩、この身において阿惟越致地に至ることを得、阿耨多羅三藐三菩提を成らんと欲はば、当にこの十方諸仏を念ずべし。

(弥陀の)名号を称すること『宝月童子所問経』の「阿惟越致品」のなかに説くが如しと。

善徳本願力

十仏聞名不退

たまふ。一の説法に於て、無量無辺千万億阿僧祇の衆生をして無生法忍に住せしめ、此の人数に倍して初忍・第二・第三忍に住することを得しめたまふ。

宝月、其の仏の本願力の故に、若し他方の衆生有りて、先仏の所に於て諸の善根を種ゑむに、是の仏但光明を以て身に触れたまふに、即ち無生法忍を得。宝月、若し善男子・善女人ありて是の仏の名を聞きて能く信受する者は、即ち阿耨多羅三藐三菩提を退せず。

余の九仏の事皆亦是のごとし。

今当に諸仏の名号及び国土の名号を解説すべし。

〔善徳〕といふは、其の徳淳善にして但安樂のみ有り。諸天・龍神の福德の、衆生を惑悩するがごときには非ず。

〔栴檀〕といふは、南方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、歡喜と名づく。仏を栴檀徳と号す。今現に在して法を説きたまふ。譬へば栴檀の香ばしくして清涼なるがごとく、彼の仏の名称遠く聞ゆること、香の流布するがごとし。衆生の三毒の火熱を滅除して清涼なることを得しむ。

光明無量無辺

〔無量明〕といふは、西方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、善と名づく。仏を無量明と号す。今現に在して法を説きたまふ。其の仏の身光及び智慧明焰にして無量無辺なり。

〔相徳〕といふは、北方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、不可動と名づく。仏を相徳と名づく。今現に在して法を説きたまふ。其の仏の福德高顯なること、猶幢相のごとし。

〔無憂徳〕といふは、東南方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、月明と名づく。仏を無憂徳と号す。今現に在して法を説きたまふ。其の仏の神徳諸の天・人をして憂愁有ること無からしむ。

〔宝施〕といふは、西南方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、衆相と名づく。仏を宝施と号す。今現に在して法を説きたまふ。其の仏諸の無漏の根・力・覺・道等の宝を以て常に衆生に施す。

十仏称名不退

称名不退

聞名不退

華徳仏といふは、西北方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、衆音と名づく。仏を華徳と号す。今現に在して法を説きたまふ。其の仏の色身、猶妙華のごとく、其の徳無量なり。

三乗行仏といふは、東北方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、安穩と名づく。仏を三乗行と号す。今現に在して法を説きたまふ。其の仏常に声聞の行、辟支仏の行、諸の菩薩の行を説きたまふ。有る人言はく、上・中・下の精進を説くが故に、号して三乗行と為すと。

明徳仏といふは、下方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、广大と名づく。仏を明徳と号す。今現に在して法を説きたまふ。明とは身明・智慧明・宝樹光明に名づく。是の三種の明常に世間を照らす。

広衆徳といふは、上方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、衆月と名づく。仏を広衆徳と号す。今現に在して法を説きたまふ。其の仏の弟子福德广大なるが故に、広衆徳と号す。

今是の十方の仏善徳を初めと為し、広衆徳を後と為す。若し人一心に其の名号を称すれば、即ち阿耨多羅三藐三菩提を退せざることを得。偈に説くがごとし。

若し人有りて是の諸の  
即ち無量の徳を得。

我是の諸仏を礼したてまつる。  
其名を称すること有れば、

仏の名を説くを聞くことを得れば、  
宝月の為に説きたまふがごとし。  
今現に十方に在す。  
即ち不退転を得。

●東方に無憂界あり、  
色相金山のごとし。

其の仏を善徳と号す。  
名の聞ゆること辺際無し。

若し人名を聞けば、  
我今合掌し礼したてまつる。

即ち不退転を得。  
願はくは悉く憂悩を除きたまへ。

●南方に歡喜界あり、

仏を稱檀徳と号す。

光明無量

聞名不退

光照無辺  
聞名不退

聞名不退

面の淨きこと満月のごとし。

能く諸の衆生の

名を聞くもの不退を得。

●西方に善世界あり、

身光・智慧明らかにして、

其れ名を聞くこと有れば、

我今稽首し礼したてまつる。

●北方に無動界あり、

身に衆の相好を具し、

魔怨の衆を摧破し、

名を聞けば不退を得。

●東南の月明界に、

光明日月に喩へ、

常に衆の為に法を説き、

十方の仏称讃したまふ。

●西南に衆相界あり、

常に諸の法宝を以て、

諸天頭面をもて礼して、

我今五体を以て、

●西北に衆音界あり、

世界に衆の宝樹ありて、

常に七覺の華を以て、

白毫相月のごとし。

光明量り有ること無し。

三毒の熱惱を滅したまふ。

是の故に稽首し礼したてまつる。

仏を無量明と号す。

照らす所辺際無し。

即ち不退転を得。

願はくは生死の際を尽したまへ。

仏を号して相徳と為す。

以て自ら莊嚴し、

善く諸の人天を化したまふ。

是の故に稽首し礼したてまつる。

仏有して無憂と号す。

遇ふ者煩惱を滅す。

諸の内外の苦を除きたまふ。

是の故に稽首し礼したてまつる。

仏を号して宝施と為す。

広く一切に施したまふ。

宝冠足下に在り。

宝施尊を帰命したてまつる。

仏を号して華徳と為す。

妙法音を演出す。

衆生を莊嚴す。

我今頭面をもて礼したてまつる。

光明無量

●東北の安穩界、

仏を三乗行と号す。

智慧の光無量にして、  
衆生に憂悩無し。

●上方の衆月界、

大徳の声聞衆、

諸聖の中の師子なり。

諸魔の怖畏する所なり。

●下方に広世界あり、

身相妙にして、

常に智慧の日を以て、

宝土甚だ広大なり。

海徳勸化

過去無数劫に、

是の諸の現在の仏、

寿命量り有ること無し。

国土甚だ清浄なり。

今現に十方に在して、

是の故に人天の中の最尊を

諸宝をもて合成する所なり。

無量の相をもて身を嚴りたまふ。

能く無明の闇を破したまへば、

是の故に稽首し礼したてまつる。

衆宝をもて莊嚴する所なり。

菩薩量り有ること無し。

号して広衆徳と曰ふ。

是の故に稽首し礼したてまつる。

仏を号して明徳と為す。

閻浮檀金山に超絶す。

諸の善根の華を開きたまふ。

我遙かに稽首し礼したてまつる。

仏有して海徳と号す。

皆彼に従ひて願を發せり。

光明照らして極まり無し。

名を聞けば定めて仏に作る。

十力を具足し成じたまふ。

稽首し礼したてまつると。

【法事讃】

上海徳初際如来より  
乃ち今時の釈迦に至る  
諸仏、皆弘誓に乗じて  
悲智双行し、含情を捨て  
ずして三輪普く化した  
たまふ。

…慈悲方便をもて視  
教宜しきに随ひ、鉅め  
で弥陀を念ぜしめ、淨  
土に帰せしめたまふ。

【行巻】

是の諸の現在の仏、  
皆彼に従ひて願を發せ  
り。

『寿命量り有ること  
無し。光明照らして極  
まり無し。国土甚だ清  
浄なり。名を聞きて定  
めて仏に倣はん。』

○百七仏章（弥陀章）

○問うて曰く、

但だ是の十仏の名号を聞いて、執持して心に在けば、便ち阿耨多羅三藐三菩提を退せざることを得るか。更に余仏・余菩薩の名有って、阿惟越致に至ることを得と為すや。

○答へて曰く、



阿弥陀等の仏

名を称し一心に念すれば

及び諸の大菩薩あり

亦不退転を得。

更に阿弥陀等の諸仏有り、亦、恭敬し礼拝して其の名号を称すべし。今当に具に説くべし。無量寿仏・世自在王仏・

師子意仏・法意仏・梵相仏・世相仏・世妙仏・慈悲仏・世王仏・人王仏・月徳仏・宝徳仏・相徳仏・大相仏・珠蓋仏・師子鬘仏・破無明仏・智華仏・多摩羅跋栴檀香仏・持大功徳仏・雨七宝仏・超勇仏・離瞋恨仏・大莊嚴仏・無相仏・宝藏仏・徳頂仏・多伽羅香仏・栴檀香仏・蓮華香仏・莊嚴道路仏・龍蓋仏・雨華仏・散華仏・華光明仏・日音声仏・蔽日月仏・琉璃藏仏・梵音仏・浄明仏・金藏仏・須弥頂仏・山王仏・音声自在仏・浄眼仏・月明仏・如須弥山仏・日月仏・得衆仏・華生仏・梵音説仏・世主仏・師子行仏・妙法意師子吼仏・珠寶蓋珊瑚色仏・破痴愛闇仏・水月仏・衆華仏・開智慧仏・持雜宝仏・菩提仏・華超出仏・真琉璃明仏・蔽日明仏・持大功徳仏・得正慧仏・勇健仏・離諂曲仏・除惡根栽仏・大香仏・道映仏・水光仏・海雲慧遊仏・徳頂華仏・華莊嚴仏・日音声仏・月勝仏・琉璃仏・梵声仏・光明仏・金藏仏・山頂仏・山王仏・音王仏・龍勝仏・無染仏・浄面仏・月面仏・如須弥仏・栴檀香仏・威勢仏・燃燈仏・難勝仏・宝徳仏・喜音仏・光明仏・龍勝仏・離垢明仏・師子仏・王王仏・力勝仏・華鬘仏・無畏明仏・香頂仏・普賢仏・普華仏・宝相仏なり。

是の諸の仏世尊現に十方の清浄世界に在す。皆名を称し憶念すべし。

阿弥陀仏の本願は是くのごとし、若し人我を念じ名を称して自ら帰すれば、即ち必定に入りて阿耨多羅三藐三菩提を得と。是の故に常に憶念すべし。偈を以て称讃せむ。

【行巻】

答へて曰はく、阿弥陀等の仏及び諸の大菩薩、名を称し一心に念すれば、亦不退転を得ること是くの如し。

阿弥陀等の諸仏、亦、恭敬礼拝し、其の名号を称すべし。

今当に具に『無量寿仏』を説くべし。

世自在王仏 乃至其余仏

有すこの諸仏世尊、現に十方の清浄世界に、皆名を称し阿弥陀仏の本願を憶念することは是くの如し。

若し人、我を念じ名を称して自ら帰すれば、即、必定に入て阿耨多羅三藐三菩提を得、この故に常に憶念すべしと。

○弥陀章

本願取意文

常念

往生

成就取意文  
即時入必定  
論主常念

応受諸苦

無量光明慧あり、  
我今身口意をもて、

金色の妙光明、  
物に随ひて其の色を増す。  
若し人命終の時に、  
即ち無量の徳を具す。

人能く是の仏の  
即時に必定に入る。

彼の国の人命終して、  
惡地獄に墮せず。  
若し人彼の国に生ずれば、  
阿修羅に墮せず。  
人天の身相同じくして、  
諸勝の所歸の処なり。  
其彼の国に生ずること有れば、  
十方に普く無礙なり。  
其の国の諸の衆生は、  
亦宿命智を具す。  
彼の国土に生ずれば、  
彼此の心を生ぜず。  
三界の獄を超出して、  
声聞衆無量なり。

身は真金山のごとし。  
合掌し稽首し礼したてまつる。

普く諸の世界に流れて、  
是の故に稽首し礼したてまつる。  
彼の国に生ずることを得れば、  
是の故に我歸命したてまつる。

無量力威徳を念ずれば、  
是の故に我常に念じたてまつる。

設ひ諸の苦を受くべきも、  
是の故に歸命し礼したてまつる。  
終に三趣及与  
我今歸命し礼したてまつる。  
猶金山の頂のごとし。  
是の故に頭面をもて礼したてまつる。  
天眼・耳通を具して、  
聖中の尊を稽首したてまつる。  
神変及び心通、  
是の故に歸命し礼したてまつる。  
我無く我所無し。  
是の故に稽首し礼したてまつる。  
目は蓮華葉のごとし。  
是の故に稽首し礼したてまつる。

願作仏心  
応時現身  
歸命本願力

信疑得失  
能讀所讀

彼の国の諸の衆生、  
自然に十善を行ず。  
善より浄明を生ずること、  
二足の中の第一なり。

若し人仏に作らむと願じて、  
時に応じて為に身を現したまふ。  
本願力を歸命す。  
來て供養し法を聴く。

彼の土の諸の菩薩は、  
以て自ら身を莊嚴す。  
彼の諸の大菩薩、  
十方の仏を供養したてまつる。

若し人善根を種えて、  
信心清浄なる者は、  
十方現在の仏、  
彼の仏の功德を歎じたまふ。

其の土甚だ嚴飾にして、  
功德甚だ深厚なり。  
仏足の千輻輪は、  
見る者皆歡喜す。  
眉間の白毫の光は、

其の性皆柔和にして、  
衆聖の王を稽首したてまつる。  
無量無辺数にして、  
是の故に我歸命したてまつる。

心に阿弥陀を念ずれば、  
是の故に我、彼の仏の  
十方の諸の菩薩、  
是の故に我稽首したてまつる。

諸の相好を具足し、  
我今歸命し礼したてまつる。  
日日三時に、  
是の故に稽首し礼したてまつる。

疑へば則ち華開けず。  
華開けて則ち仏を見たてまつる。  
種種の因縁を以て、  
我今歸命し礼したてまつる。

彼の諸の天宮に殊なり、  
是の故に仏足を礼したてまつる。  
柔軟にして蓮華の色あり。  
頭面をもて仏足を礼したてまつる。  
猶清浄なる月のごとし。

面の光色を増益す。

本仏道を求むる時、

諸經の所説のごとし。

彼の仏の言説したまふ所、

美言にして益する所多し。

此の美言の説を以て、

已に度し今猶度したまふ。

人天の中の最尊なり。

七宝の冠足を摩づ。

一切の賢聖衆、

咸く皆共に歸命す。

彼の八道の船に乗じて、

自ら度し亦彼を度したまふ。

諸仏無量劫に、

猶尚尽すこと能はず。

我今亦是くの如く、

是の福の因縁を以て、

廻向句

論主称讃  
願仏常念

乗船譬喩  
自利利他

頭面をもて仏足を礼したてまつる。

諸の奇妙の事を行じたまふ。

頭面をもて稽首し礼したてまつる。

諸の罪根を破除す。

我今稽首し礼したてまつる。

諸の着樂の病を救ひたまふ。

是の故に稽首し礼したてまつる。

諸天頭面をもて礼し、

是の故に我歸命したてまつる。

及び諸の人天衆、

是の故に我も亦礼したてまつる。

能く難度海を度す。

我自在者を礼したてまつる。

其の功德を讃揚せむに、

清淨人を歸命したてまつる。

無量の徳を称讃す。

願はくは仏常に我を念じたまへ。

福德、若しは大小、

心常に清淨なることを得む。

獲る所の上妙の徳、

皆亦悉く当に得べしと。

【行巻】

彼の八道の船に乗じて、

能く難度海を度す。

自ら度し亦彼を度せむ。

我自在者を礼したてまつる。

諸仏、無量劫に、其の

功德を讃揚せむに、猶尚

尽すこと能はず。清淨人

を歸命したてまつる。我

今亦是くの如く。無量の

徳を称讃す。

是の福の因縁を以て、

願はくは仏常に我を念じ

たまへ。

【論註】

魚母、子を念持すれ

ば、ガクをへて壊せざる

が如し。

…安樂国は正覺の為に

善く其の国を持せらる。

又亦毘婆尸仏・尸棄仏・毘首婆伏仏・拘樓珊提仏・迦那迦牟尼仏・迦葉仏・釈迦牟尼仏及び未來世の彌勒仏を念ずべし。皆憶念し礼拝すべし。偈を以て稱讚せむ。

●毘婆尸世尊、

一切智を成就して、  
正しく世間を觀じ、  
我今五体を以て、

●尸棄仏世尊、

樹の下に在して坐し、  
身色比有ること無し。

我今自ら三界の

●毘首婆世尊、

自然に一切の

諸の上天の中に於て、

是の故に我一切

●迦求村大仏は、

三菩提を、

大智慧を成就し、

我今第一無比尊を

●迦那含牟尼、

優曇鉢樹の下にして、

一切法は無量にして

是の故に我第一

●迦葉仏世尊、

弱拘樓陀樹の

無憂道樹の下にして、

微妙の諸の功德あり。

其の心解脱を得たまふ。

無上尊を歸命したてまつる。

〔分〕他利道場

菩提を成就したまふ。

然ゆる紫金山のごとし。

無上尊を歸命したてまつる。

娑羅樹の下に坐し、

妙智慧に通達することを得たまふ。

第一にして比有ること無し。

最勝尊を歸命したてまつる。

阿耨多羅三藐

尸利沙樹の下に得たまひて、

永く生死を脱したまふ。

歸命し礼したてまつる。

大聖無上尊、

仏道を成就し得て、

辺有ること無しと通達したまふ。

無上尊を歸命したてまつる。

眼は双蓮華のごとし。

下に於て仏道を成ず。

三界に畏るる所無し。

我今自ら無極尊を

●釈迦牟尼仏、

魔・怨敵を降伏し、

面貌満月のごとく、

我今勇猛第一尊を

●当来の弥勒仏、

広大の心を成就し、

功德甚だ堅牢にして、

是の故に我自ら

行歩すること象王のごとし。

帰命し稽首したてまつる。

阿輪陀樹の下にして、

無上道を成就したまふ。

清浄にして瑕塵無し。

稽首し礼したてまつる。

那伽樹の下に坐して、

自然に仏道を得たまはむ。

能く勝るる者有ること莫からむ。

無比妙法王に帰したてまつると。

復徳勝仏・普明仏・勝敵仏・王相仏・相王仏・無量功德明自在王仏・藥王無礙仏・宝遊行仏・宝華  
仏・安住仏・山王仏有す。亦憶念し恭敬し礼拝すべし。偈を以て称讃せむ。

●無勝世界の中に、

我今及び法宝・僧宝を

●随意喜世界に、

我今自ら及び法宝・僧宝を

●普賢世界の中に、

我今及び法宝・僧宝を

●善浄集世界あり、

我今及び法宝・僧宝を

●離垢集世界の

十方に自在なり。

●不誑世界の中の

仏有して徳勝と号す。

稽首し礼したてまつる。

仏有して普明と号す。

帰命したてまつる。

仏有して勝敵と号す。

帰命し礼したてまつる。

仏を王幢相と号す。

稽首し礼したてまつる。

無量功德明、

是の故に稽首し礼したてまつる。

無礙藥王仏、

我今頭面をもて及び

●今集世界の中の仏を

我今頭面をもて及び

●美音界の宝花

我今頭面をもて及び

今是の諸の如来、

我恭敬の心を以て

唯願はくは諸の如来、

身を現じて我が前に在して、

法宝・僧宝を礼したてまつる。

宝遊行と号す。

法宝・僧宝を礼したてまつる。

安立山王仏、

法宝・僧宝を礼したてまつる。

住して東方界に在す。

称揚し帰命し礼したてまつる。

深く加するに慈愍を以てし、

皆目をして見ることを得しめたまへと。

復次に過去・未来・現在の諸仏、尽く総じて念じ恭敬し礼拝すべし。偈を以て称讃せむ。

過去世の諸仏、

大智慧力を以て、

彼の時の諸の衆生、

恭敬して称揚す。

衆の魔怨を降伏し、

広く衆生を利す。

心を尽して皆供養し、

是の故に頭面をもて礼したてまつる。

現在十方界の

其の数恒沙に過ぐ。

諸の衆生を慈愍し、

是の故に我恭敬し、

不可計の諸仏、

無量にして辺有ること無し。

常に妙法輪を転じたまへり。

帰命し稽首し礼したてまつる。

未来世の諸仏、

光明量り有ること無し。

身色金山のごとく、

衆相自ら莊嚴す。

出世して衆生を度し、  
是くのごとき諸の世尊、

当に涅槃に入りたまふべし。  
我今頭面をもて礼したてまつると。

復諸の大菩薩を憶念すべし。

善意菩薩・善眼菩薩・閼月菩薩・尸毘王菩薩・一切勝菩薩・知大地菩薩・大藥菩薩・鳩舍菩薩・阿離  
念彌菩薩・頂生王菩薩・喜見菩薩・鬱多羅菩薩・薩和檀菩薩・長寿王菩薩・羴提菩薩・韋藍菩薩・睽菩  
薩・月蓋菩薩・明首菩薩・法首菩薩・成利菩薩・弥勒菩薩なり。復金剛藏菩薩・金剛首菩薩・無垢藏菩  
薩・無垢称菩薩・除疑菩薩・無垢德菩薩・網明菩薩・無量明菩薩・大明菩薩・無尽意菩薩・意王菩薩・  
無辺意菩薩・日音菩薩・月音菩薩・美音菩薩・美音声菩薩・大音声菩薩・堅精進菩薩・常堅菩薩・堅発  
菩薩・莊嚴王菩薩・常悲菩薩・常不輕菩薩・法上菩薩・法意菩薩・法喜菩薩・法首菩薩・法積菩薩・発  
精進菩薩・智慧菩薩・淨威德菩薩・那羅延菩薩・善思惟菩薩・法思惟菩薩・跋陀波羅菩薩・法益菩薩・  
高德菩薩・師子遊行菩薩・喜根菩薩・上宝月菩薩・不虛德菩薩・龍德菩薩・文殊師利菩薩・妙音菩薩・  
雲音菩薩・勝意菩薩・照明菩薩・勇衆菩薩・勝衆菩薩・威儀菩薩・師子意菩薩・上意菩薩・益意菩薩・  
增意菩薩・宝明菩薩・慧頂菩薩・衆說頂菩薩・有德菩薩・觀世自在王菩薩・陀羅尼自在王菩薩・大自在  
王菩薩・無憂德菩薩・不虛見菩薩・離惡道菩薩・一切勇健菩薩・破闇菩薩・功德宝菩薩・花威德菩薩・  
金瓔珞明德菩薩・離諸陰蓋菩薩・心無閼菩薩・一切行淨菩薩・等見菩薩・不等見菩薩・三昧遊戲菩薩・  
法自在菩薩・法相菩薩・明莊嚴菩薩・大莊嚴菩薩・宝頂菩薩・宝印手菩薩・常拳手菩薩・常下手菩薩・  
常慘菩薩・常喜菩薩・喜王菩薩・得弁才音声菩薩・虚空雷音菩薩・持宝炬菩薩・勇施菩薩・帝網菩薩・  
馬光菩薩・空無閼菩薩・宝勝菩薩・天王菩薩・破魔菩薩・電德菩薩・自在菩薩・頂相菩薩・出過菩薩・  
師子吼菩薩・雲蔭菩薩・能勝菩薩・山相幢王菩薩・香象菩薩・大香象菩薩・白香象菩薩・常精進菩薩・  
不休息菩薩・妙生菩薩・華莊嚴菩薩・觀世音菩薩・得大勢菩薩・水王菩薩・山王菩薩・帝網菩薩・宝施  
菩薩・破魔菩薩・莊嚴国土菩薩・金髻菩薩・珠髻菩薩、

是くのごとき等の諸の大菩薩有す。皆憶念し恭敬し礼拝して阿惟越致地を求むべし。